1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103346
法人名	社会福祉法人　致 遠 会
事業所名	グループホーム　サンハイツ青山
所在地	〒852－8036　長崎市青山町2番36号 （電　話）095－841－9398

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】（平成20年10月30日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　2　月　1　日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　26　人
職員数	24　人	常勤 22 人，非常勤 2 人，常勤換算 7.6 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	4 階建ての　2 階 ～ 4 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	51,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費300/日　円
敷　金	□有（　円）		■無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有（　円） ■無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	330　円
	夕食	350　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（10月30日現在）

利用者人数		26 名	男性	7 名	女性　19 名
要介護1		4　名	要介護2	8　名	
要介護3		9　名	要介護4	4　名	
要介護5		1　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	84.6 歳	最低	71 歳	最高　101 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	長崎みどり病院・みどりクリニック・松尾歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念の一つである【地域福祉の充実に貢献する】を職員一人ひとりが受け止めて、新旧交代し躍進を続けられているホームである。これまでの所長や職員が築いてきた《確かなベースがあるから職員が変わっても継続した取り組みが提供できる》と職員も所長も同じ見解を持たれており、自負されている。又、そのことに甘んじることなく、常に向上心を持たれ、職員体制も若いリーダーを全職員で支えながら共に成長する喜びを共有されている。これは、入居者との関わりにも活かされており、『心配しているつもりが心配してもらっている』の一言に言い表されている。ユニット毎に家族愛が形成された人間味溢れるホームでもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題【チームでつくる利用者本位の介護計画】については、改善計画シートを作成され、改善目標として①フェースシートの様式を整備し、職員がいつ見てもわかるファイルの整理をする。②入居者や家族の意見をより反映したケアプランの作成の2点を挙げられ、①についてはケース記録の書式見直しの具体案を実行に移す段階である。②については、入居者の主張を聞きだす声かけの工夫をされたり、家族の意見を求める機会作りの取り組みをされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	全職員が個別に自己評価票記入の取り組みをし、各ユニット毎に話し合いをし、まとめられている。記入していくうちに問題点が見えてくるのも自己評価の利点であり、活字になって介護の壁になったこともユニット間での話し合いでホームの実像が明確になり、ホームの中身の充実が確認でき自信にもつながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	現在、運営推進会議にはホーム側から所長と各ユニットのリーダーが参加し、会議内容については後日、文章を通して職員に報告されているが、今後は職員の参加も検討されている。概ね一週間に1度開催されている事例検討会議の内容なども運営推進会議で報告され、ホーム生活や業務の実態など透明性の高いサービスの提供を目指されており、参加メンバーからの活発な意見や感想をサービスの向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族以外にも近所や運営推進会議メンバーからの気づきや助言も真摯に受け止められ運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	法人代表である理事長の【地域の福祉拠点作りに努めます】の方針をホーム生活の活動の中に取り入れられている。毎週水曜日の午後から、入居者9人前後と職員が近所の公園清掃をされている。又、ケアの方針に謳われているように地域の商店街で買い物をするなど、ホーム生活が地域と密着した中に個別援助が行き届いたサービスの提供を目指され、実践に努められている。

2. 評 価 結 果 (詳 細)

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にホーム独自のケアの方針に《①お年寄りの自分らしい暮らしを支援します　②地域の商店街で買い物するなど、暮らしが地域に密着するよう支援します　③知識を深めて専門性を高めケアの向上に努めます》の3本柱がある。揺ぎ無い3本柱を目指して、現在、【水、食事、排泄、運動】をキーワードに他職種の専門性の導入･連携の取り組みをされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日本医科大学教授の竹内孝仁先生の理論を受けて、ホームとしての強化目標を【水分、食事、排泄、運動】とし、特に、水分の摂取量の把握と運動量には個別の対応と随時の見直しで健康･生活の維持に反映されている。又、法人内各事業所の代表1名で構成される接遇マナー委員会の今期（10月～12月）の標語が《挨拶･笑顔習慣》で、ホームの小目標を【言葉づかいは敬語で心をこめて】にされ、職員一丸となった取り組みに努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人代表である理事長の【地域の福祉拠点作りに努めます】の方針をホーム生活の活動の中に取り入れられている。毎週水曜日の午後から、入居者9人前後と職員が近所の公園清掃をされている。又、ケアの方針に謳われているように、地域の商店街で買い物するなど、ホーム生活が地域と密着した中に個別援助が行き届いたサービスの提供を目指され、実践に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が個別に自己評価票記入の取り組みをし、各ユニット毎に話し合いをされまとめられている。記入していくうちに問題点が見えてくるのも自己評価の利点であり、活字になって介護の壁になったこともユニット間での話し合いでホームの実像が明確になり、ホームの中身の充実が確認でき自信にもつながっている。これまでの所長や職員が築いてきた【確かなベースがあるから職員が変わっても継続した取り組みが提供できる。】と所長も職員も同じ見解を持たれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議にはホーム側から所長とリーダーが参加し、会議内容については、後日文章を通して職員に報告されているが、今後は職員の参加も検討されている。概ね週に1度開催されている事例検討会議の内容等も運営推進会議で報告され、ホーム生活や業務の状況など透明性の高いサービスの提供を目指されており、参加メンバーからの活発な意見や感想をサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修に参加されており、他職種の参加もあるのでグループ討議などを通した中で職種を越えた連携やネットワーク作りの交流をされている。又、権利擁護や後見人制度についてのグループホームとしての関わり方など講師を招いての研修依頼など積極的な関わりの姿勢で望まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への毎月の請求書送付と一緒に所長名でホーム生活の全体的な様子や状況、行事案内が記載されたＡ4サイズ1枚程度の文書が可能な限り毎月届けられている。又、入居者担当職員の自筆による一筆箋たよりは家族に好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族以外にも近所の方や運営推進会議メンバーからの気づきや助言も真摯に受け止められ、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は法人内のものとユニット間のものがあり、どちらも入居者への影響を考慮しながら対応されている。背景には業務のマンネリ化防止と職員のチームワークを目指したバランスの調整が意図されており、入居者の状態や援助内容を検討･配慮した異動に努められている。申し送りノートには、他のユニットの入居者に関する特記事項も含まれており、ホーム全体の入居者の状況把握は日常的にされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有料の研修や内容が充実した研修に関しては、復命書扱いで処理されている。報告書提出は当然のことではあるが、報告書の2段階提出制度を採られている。研修受講1週間以内に研修内容と研修を受けての感想･意向などを報告し、1ヶ月後には、それについての経過･評価等を報告するシステムになっている。報告書作成は大変でもそのプロセスに大きな意義があり、職員の向上心と所長の職員に対する期待がバランスよく稼動している。バリデーション研修に関しては次回が待望されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今の福祉離れに少しでも貢献したい気持ちを持たれており、実習の受け入れなどで福祉職への就業支援もされている。所長は、今年度のグループホーム協議会の理事になられ、手始めに地区別に組織分けの再編成をされ、12月9日に第1回目の研修会を開催予定である。将来的には、グループホームの相互訪問･体験活動の構想実現に意欲を示されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでは、家族との密な情報交換で本人の安心･安定に努められていたが、更に現在は、家族の不安を取り除く意味でも共用デイサービスやショートステイの利用などからホームの雰囲気に馴染んでもらったり、入居者や職員と顔馴染みなってもらうなど時間をかけたサービスの利用開始の取り組みもされている。入居後も家族には本人の状態に応じた面会に対する協力を要請されており、本人の安定に繋げられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の誕生会のスピーチで職員が間違った言葉を使ったとき、入居者から『他所でそがんことは言うたらダメ、恥ずかしい』と、きちんとたしなめて教えてもらわれている。入居者と職員が対等の立場を固持し、双方が共同生活者として支え、協力し合っている場面が随所で見られ家族の雰囲気が漂っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の観察や見守りの下、入居者同士で見守りや声かけ、促しがされており、ピア介護が自然体で実践されている。入居者間での関わり時の表情は活力があり変化に富んでいて感情そのものが生きている。こうした関わりの中で、知り得た情報を職員に提供･助言され、入居者の【気づき】が職員に【つながれ】ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の主張を引き出す声かけを心がけられており、介護計画にも反映されている。問題が生じた場合は、家族にも経緯を正直に伝えて、【本人にとってどうすればよいか】の方向性･解決策を一緒に模索されている。他に、共用デイサービスの職員ともサービス担当者会議を通して情報を共有されており、本人、家族、関係職員の気づきや意見を取り入れた介護計画の作成に努められている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、概ね3ヶ月に1回の見直しをされており、変化があるときなど必要時は随時の見直しをされている。又、入居者関連の事例検討会を週に1回出来る範囲で開催されており、ケアプラン会議と同様に介護計画の見直しに活かされている。現在、日々のケース記録のあり方にも着目されて、ケース記録からも介護計画の分析･評価ができるように考案されている最中で、基本的な構想を持たれており、取り組みを積極的に意思表示された。	○	チームケアの更なる充実と介護計画の実践･モニタリング･評価等が日々記録されることによりケアプランの適正把握と今後の方向性の気づきにつながるケース記録様式の構想の実現化に期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ボランティアの活用で柔軟な対応にも拡がりができており、バザーや研修会の場所の提供や講師派遣なども家族や地域に向けて支援されている。又、入居者の【子供に会いたい】という要望に応えて、月に1回面会に連れて行かれている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のこれまでのかかりつけ医の継続受診を支援されており、ホームの協力医とは医療情報提供票などで連携につなげられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療現場等には24時間アセスメントシートの記録で情報提供されており、介護現場として本人･家族の意向を最大限取り入れた支援を心がけられている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を意識した声かけや目線での対応で、特に本人のできることには職員は手を出さないように心がけされ、観察と見守りで自立･自己決定に繋げられている。又、記録物などの取り扱いは慎重にされており、特定の場所に管理･保管されている。又、所長自ら、1日入居者の疑似体験をされ、介護される側の目線や気持ちは職員が想像できる範囲を超えていることを痛感されており、今後の研修に疑似体験を取り入れていきたい意向を持たれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な生活の流れの中に、入居者のペースやタイミングを上手く取り入れた支援に努められている。基本的に職員に業務分担はなく、入居者を中心とした生活支援で、職員の気づきや自発性などリーダーを中心にチームケアが展開されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の方針で食材費等の透明性から、職員の摂食は検食以外していない。これを除けば入居者と同じテーブルに着き、会話を楽しみながら食事介助や見守り支援をされている。食材は、入居者と職員が地域の商店等へ買い物に行き、手で触れて目で確かめ五感への刺激を受けながら購入されている。準備や後片付けもできる範囲で関われる場面作りをされ、支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望やタイミングに応じた支援を心がけされており、職員の業務割り当ては原則的に無いに等しい。個浴スペースではあるが、希望により気の合った入居者同士入られることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の様子観察と行動予測の判断の迅速性を入居者との関わりに活かした支援が随所で見られる。職員の口からも【コミュニティ】という言葉が聞かれたが、入居者間に自然な形で役割、関係作りができており、入居者の力も活かしながら対等的環境で共同生活が営まれており、正しくその通りである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者によって外出の偏りは否めないが、犬と一緒の散歩や食材の買い物、公園清掃など楽しみや役割、達成感など外出の場面作りや環境整備にも配慮されている。ホーム前の横断信号の時間延長を自治会長が警察に掛け合って「時間帯で検討します」の回答を得られている。今のところ、通行車両の協力と職員の交通整理で道を挟んだ場所への外出も支援できている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関への施錠はされていない。外出口は玄関前のエレベーターと階段であるが、各ユニットの玄関からは離れており、視界には入りにくいので安全面への配慮の基、各階の階段口には柵に止め具の設置をされている。又、職員による入居者の位置や動向把握は勿論のこと、玄関引き戸のところには鈴などを設置して外出を把握できるよう工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、地域の方、運営推進委員会メンバーにも参加の要請され、年2回の防災訓練を開催されている。 又、自治会役員の2名の方に協力員の受託も頂かれている。 訓練や協力の体制作りには注力され取り組まれているが、ガイドラインに沿ったライフラインにつながる持ち出し品や備蓄などのホームとしての取り決めまでには至っていない。	○	自然災害も範疇に、ガイドラインに沿ったホーム独自のライフラインの確保につながる体制の組織作りや手順、持ち出し品、備蓄などの取り決めをされ、防災訓練と同様に定期的な周知、見直しなどの取り組みが望まれる。尚、危機管理の面から新型インフルエンザに対しての具体的対策についても取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に必要な栄養量と水分を確保できる食環境を入居者の摂食･嚥下機能と美味しく食べられることにつながる口腔ケアと生活の質に配慮したサービス提供を目指し、現在、他職種と連携した栄養ケア計画シートの導入の取り組みを始められたところである。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体の造りが洋式なので、調度品や装飾には和風のものを取り入れられており、入居者の動線を意識した椅子やソファー、テーブルの配置などで入居者の自立歩行･移動を支援されており、テレビやラジカセの音量も心地良さに反映されている。広いリビングも、人の気配を感じながら集いや独り居など自由に選ぶことができ、窓越しの景色は、季節感や生活感を提供し、五感への刺激に配慮した環境づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の殆どに畳もしくはイグサの敷物を取り入れられており、中には特注の畳を敷き詰められ拘りへの支援を強く感じることができる。又、インテリアのレイアウトには家族が係わっており、大人の気品と本人の生活史を調度品や装飾品などから窺い知ることができ、本人や家族にとっての拘り溢れる終の棲家または安らげる場所となっている。		